

◎「東温市民大学」(愛媛県)で中浜万次郎を語る！ 「中浜万次郎の生死から見たジョン万スピリット」



過日7月3日(日)、愛媛県東温市の坊ちゃん劇場において、東温市文化協会主催の「東温市民大学」が開催されました。冒頭の基調講演を「中浜万次郎の生死から見たジョン万スピリット」と題し、市史編さん室田村公利が40分の講話をさせていただきました。

後半は、横内謙介氏の作・作詞・演出による「ジョンマイラブージョン万次郎と鉄の7年一」と題したミュージ

カルが上演されました。このミュージカルは、嘉永7年(1854)2月12日、万次郎が仕えていた伊豆葦山(いずいらやま)代官・江川太郎左衛門の世話により、万次郎と団野源之進(だんのげんのしん)の次女・鉄とが結婚。それから僅か7年余り、鉄は25歳の若さで麻疹(はしか)に罹患して逝去します。この僅か7年余りの短い期間を題材とし、万次郎とその周辺の動向について描いたのがミュージカルです。出演者の皆さん一人ひとりが全力を尽くした演技に感動。熱いものを感じ、ラストまで食い入るように見させていただきました。ストーリーも史実に沿って展開されており、素晴らしい内容でした。

《講話》「中浜万次郎の生死から見たジョン万スピリット」の概要

- ①昨年9月に「土佐清水ジオパーク」が「日本ジオパーク」に認定されたこと。
土佐清水市の足摺岬や竜串の景観美の紹介。
- ②市史編さん事業の概要とその紹介。
- ③鳥島がいかに過酷な自然環境にあるかを動画で紹介。
- ④万次郎の少年時代の中浜浦の様子。厳しい生活環境の中を育ってきた事実。
10歳で村役(浦老)の今津家の屋敷に奉公。脱穀をめぐり主人と万次郎が喧嘩。
- ⑤44歳で脳梗塞となり歴史の表舞台から離れた。
そこには万次郎のどんな思いがあったのか。
- ⑥妻鉄との僅か7年余りの結婚生活。しかし、この期間に万次郎は八面六臂(はちめん

ろっぴ)の大活躍をした。それを支えたのが鉄だった。

⑦長男東一郎が医者となり、防疫医学の道に進んだのは母・鉄を麻疹(はしか)で亡くしたことが最大の理由だったのではないか。

⑧明治8年7月26日から8月5日まで、万次郎は長男東一郎を連れて、中浜浦に里帰りしている。そのときの様子。(万次郎母)「志ヲ」と万次郎・東一郎等との別れの場面を紹介。「此の別哉、老祖母再日不逢て流涙別を惜む」(『中浜東一郎日記』)これが実際、志ヲと万次郎・東一郎との今生の別れとなる。

⑨万次郎の臨終の日の1日を追う(『中浜東一郎日記』の記述による)

【講話のまとめ】

- ・人生は、その終着点として必ず死が存在する。避けては通れない道。どのように生き、いかに死を迎えるかは、人間にとって最重要課題である。四苦「生老病死」どう向かい合うか。これが大切なこと。
- ・脳梗塞になった44歳以降恐らく万次郎は、自分の人生を見つめ、悔いのない生き方を模索していたのではないか。
- ・妻や母、娘、身近な肉親の死と関わりながら、これを精神的に乗り越えつつ、自分の死さえもしっかりと見つめていた節がある。
- ・自分の魂を燃やし、どうこれを完全燃焼させていくか、ここにジョン万スピリットがある。
- ・万次郎のその思いは、没後124年の歳月を経て私たちの心に語りかけてくれているように感じる。

※最期に、今回遠路にもかかわらず、泥谷光信土佐清水市長がミュージカルの視察と私の応援にわざわざお越しくださいました。また、当日は東温市文化協会・大西会長並びに東温市教育委員会職員の皆様には大変お世話になりました。これらのお心遣いに深く感謝申し上げます。



【編集後記】今回は愛媛県東温市で万次郎を語ってきました。また、土佐清水ジオパークの商業と土佐清水市史編さんについてもお話しさせていただきました。

皆さんの血と汗の結晶である「市史編さん事業」を必ず成し遂げたい…その決意をますます深めることができた1日となりました。(田村)